

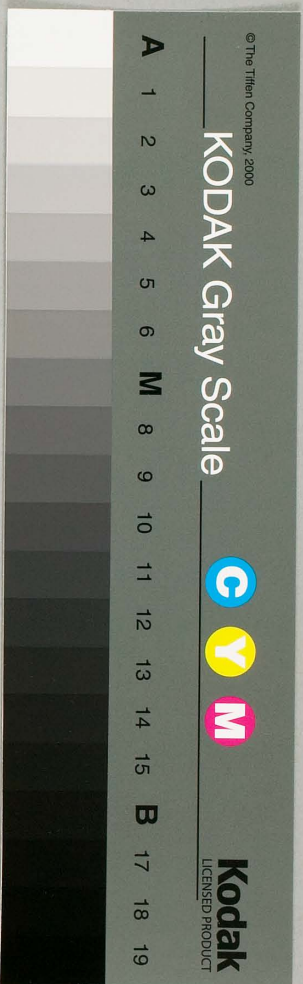


攝津名所圖會

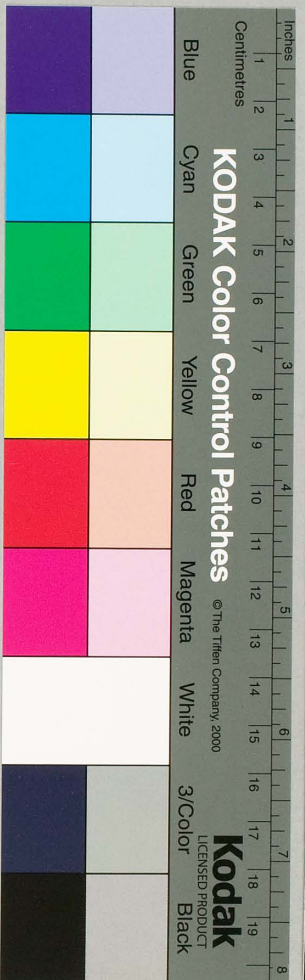
上 矢田部郡



291.6309
Ak
11



0442



攝津名所圖會

上 矢田部郡



291.6309
Ak
11

攝津名所圖會

八部郡

生田神社 齋神八系 天照大神 煙見洞
 生田里 神樂殿 神功皇后鈿座の竹
 生田海 生田
 生田一宮 生田
 馬塚 枕字石 神谷 小登場
 景季花籠 宇治中溪
 廣嚴寺 千鳥飛泉
 安徳帝行宮 八之宮 石井温泉蹟
 生田山 生田山 生田山 生田山
 清胤古蹟 生田山 生田山 生田山
 生田小野 生田山 生田山 生田山
 三宮 生田山 生田山 生田山
 再度山六龍寺 生田山 生田山 生田山
 多々部古城 生田山 生田山 生田山
 山路古城 生田山 生田山 生田山
 六之宮 生田山 生田山 生田山
 願成寺 生田山 生田山 生田山
 生田川 生田山 生田山 生田山
 生田浦 生田山 生田山 生田山
 若菜貢 生田山 生田山 生田山
 河原足貴墓 生田山 生田山 生田山
 行清堂 生田山 生田山 生田山
 梶原二度懸所 生田山 生田山 生田山
 若見亭 生田山 生田山 生田山
 楠正成墓 生田山 生田山 生田山
 安養寺 生田山 生田山 生田山

武庫川女子大学図書館

昭和	日	29/6/80
		AK
117095		11



夏野 夏野清水 存財大祠 福原古都
 差方家 兵庫津 武庫泊 式庫水門
 築島 佐比江 經基墓 七之宮
 朱達寺 梅仁伽藍圖 觀音堂
 純福寺 真福寺 和田笠松
 觀音堂 一遍上人塔 八棟寺蹟
 釋迦銅佛 須佐入江 萱沖所跡
 琵琶冢 須佐入江 眞御堂蹟
 千僧寺流 法然上人名所石 眞福寺
 自然居士井 福海寺 眞福寺
 池田城墟 兵庫生洲 眞福寺
 輪田海 和田入江 眞福寺
 和子祠 存財大祠 和田沖崎
 觀音堂 影向松 和田二石
 内裏蹟 延喜山 神馬秣

遠矢濱 眞聖里 眞聖浦 眞聖池
 芍藻川 眞聖總檜 香梅 眞聖榛原
 平和章墓 監物大帝墓 通盛墓 本村重章墓
 長田里 長田神社 蓮之化 蓮之神
 明泉寺 盛基墓 忠度塚 菅神飛松
 淀總檜 源氏松 妙法寺 若福寺
 神極山禪昌寺 方丈画 紅葉名所 什寶數石
 州賦松 聖靈權現 桂尾山勝福寺 源氏須磨卷事
 須磨里 須磨浦 取磨海
 行平脚蹟 月見松 衣懸松 遠山松
 因幡茶師 松風村雨趾 磯別松 名倉家
 網敷之神 須磨記 若田氏旧屋 家藏名筆類
 車代主祠 菅之井 頼政茶師 重衡松

攝津名所圖會

義經榎木

軍談

白龍寺 財之祠 粟花落井	天王祠 家藏武器 義經掛石	丹生山明要寺 天王堂 八幡宮 山王祠	鏡池 丹生山明要寺 天王堂 八幡宮 山王祠	火峠 田井畑 松風村雨墓	鉢伏山 松風村雨墓	一谷 二谷 三谷	子鳥川 村上帝靈蹟 内裏跡 鴨沢 二谷 三谷	芭蕉翁句碑 風月菴似雲趾 次磨隱江 陀窟 鐵磔嶺	須磨上野 須磨園蹟 稲荷洞 鐵磔嶺	上野山祥福寺 護國堂 鐵磔嶺 二王門 神功奉納 千竹 什寶數品	後之山 次磨隱江 陀窟 鐵磔嶺	光源氏旧跡 須磨園蹟 稲荷洞 鐵磔嶺
--------------------	---------------------	-----------------------------	-----------------------------------	--------------------	--------------	----------------	---------------------------------------	--------------------------------------	----------------------------	---	--------------------------	-----------------------------

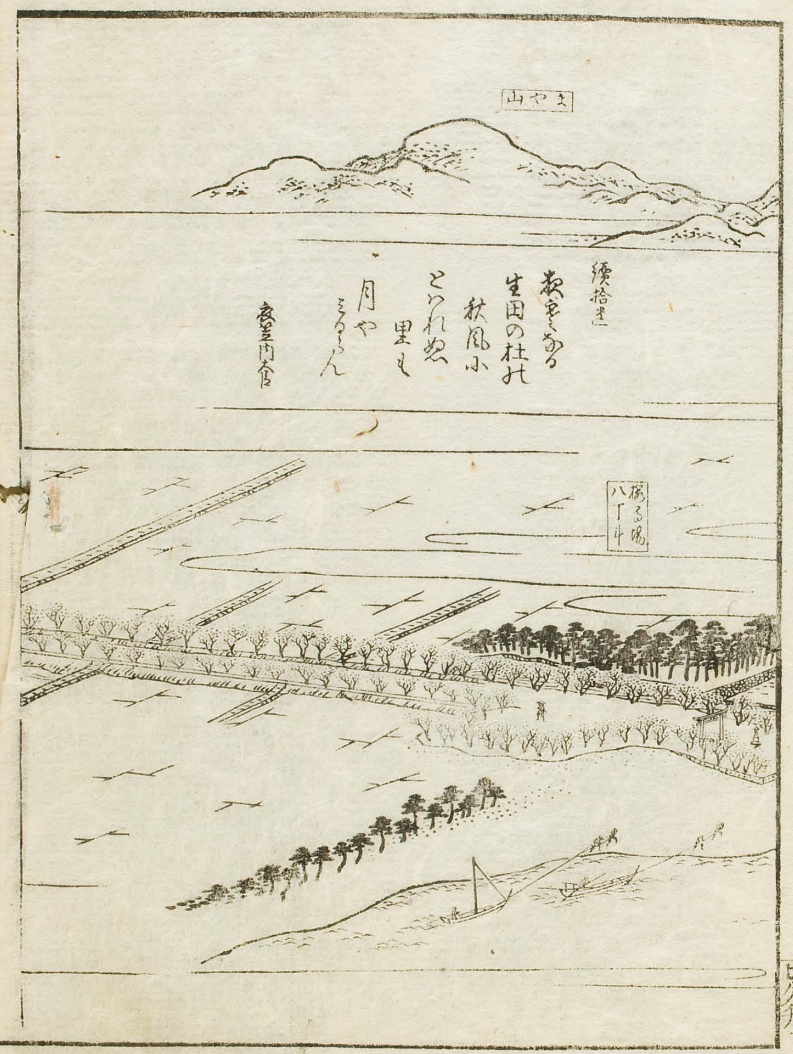
生田橋馬場
一、鳥居



山やま

橋拾三
表まゝ
生田の柱
林風小
とつれぬ
里も
月や
まのらん
表まゝ

橋の陽
八丁

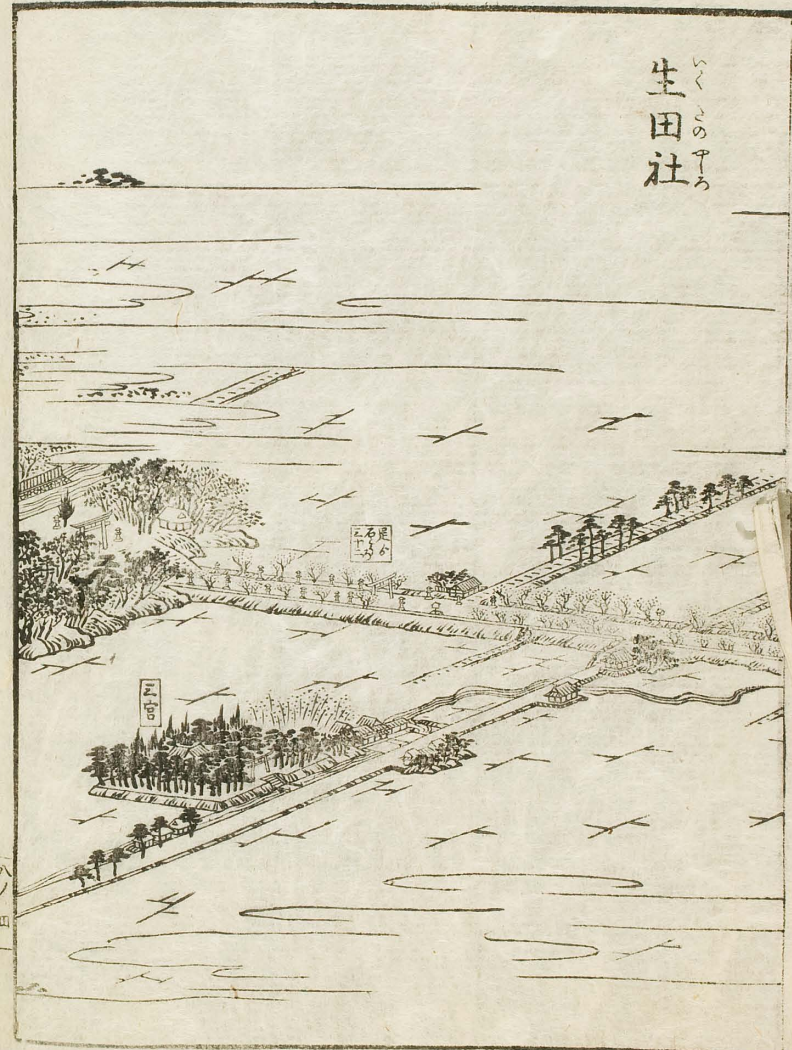


橋の陽



ヒクキ

生田社
いぐさのやしろ



八ノ四

八部郡

或ハ生田郡とも書ル東ノ夢小郡の狹小至テ也播州美裏村石の

生田

生田神社 生田宮村小あり延喜式曰名神大月次相嘗新嘗迎降在四ヶ村

砂山小あり地多生田長狭園と称ル武庫郡の生田園乃

其時破山麓之手子小村甲海上市氏供奉中於此事終今也

後保年中川家より村田氏と賜あり

祭神 稚日女尊 俗ハ天照大神の御妹と云

攝社 神殿東ノ第一住吉ニ幅 齋神小倉 威威外小あり一宮北野村

四宮 慈照村五宮 磯野村七ノ宮 去庫北侯町

稚日女尊坐于齊服殿而織神之御服也素盞尊見之則逆刺

斑駒投入殿之内稚日女尊乃驚而墮機以所持梭傷體而神退矣

同卷云 稚日女尊誨之曰吾欲居活田長狭園因以海上五十狭

草令祭之云云

貞觀元年正月奉授從四位下同十年二月生田神加

從三位云

天照大神 本社の東

稲荷祠 本社の東

和奇宮 稲荷の南小

雷大臣祠 和奇宮の

神樂殿 中門の外

經子祠 中門の外

舟財天祠 中門の外

繪馬殿 西の方

梶原井 中門の外

神功皇后鉤竿竹 繪馬殿の

鼓盞杖 西の方小あり

生田池 社願小

同く生田池の月夜に杜の秋風吹千つをほ

後成

石のほい田池千玉の神より秋の露も垂たり

範宗

月やちる信田の池の草紅葉も吹く秋の風や邪

富光

表のり生田の池にわのけいりり人の涙やうひるん

高家

はの園生田の池にわのけいりり人の涙やうひるん

後成

それ社願の草も海後らふみり生田浦生田海活田川

生田社生田里等の古塚多し海濱の神燈と表走船乃極成

磯辺の馬舟より本社まで馬場三軒計梅櫻左右小煎て其中
 海道貫つり人後るわづ梅白く春の雨とより雪の初若
 神籬小のをとく持小籠の梅もくれかいの色とくひう
 やうに梅花の盛る遠近人さく小春居して酒のとお吟
 詩作りて出艶賞賞とさねととと足れを君と教候
 小誘ひつとく浦清肥小香風送る押梅の名取とより威
 山よりく若き嵐ふあぞとあく海濱みく汐風に
 と梅は枝々風流ふたりりるよきほひ又奇之原仕地い春永
 元暦の戦場よりく一谷の城郭生田の衆い大の軍門派氏
 の五万騎あに押よ倉梶原が二及懸あると源太が花籠源平
 盛衰記小賞延えまの尊氏と新田と生田衆と後にあて
 闘してる事太事記にんく今と旧蹟のまうく神徳と
 ゆらく卯辰の四の海をなると小春杖の風文やみやび登らに

橋津一列の傍地とぞ知られける

生田山 生田社の北かみり又の名久補堂山といふ緑樹森然とく

時を生田の山乃七めりりとりりて又も鳴りん

生田川 水源布勢より流く生田の社あり麓く海へ入

生田里 生田村生田宮村あり

秋風小同き一人の若佐も生田のゆくと冬もどにたり

生田社 社頭あり

秋風小又まきとわづの園は生田のりりれま乃時はの

志それる生田のりりれおきいとわづを又はまらん

啼捨くいつちぐ田の雨を若杖とむゆ衆乃下法

向人も秋風まてまきとれりり田のりりれ雲乃夕暮

後成 宿家 順徳院 養正寺 懐念堂 保徳寺



ハノ七
エシテ



万葉集小君の山田乃
澤の恵具持と名けの
水ももをかくしけと
繪されし山田の浦
の跡を以て
寛保の春十市付より
始り七種の甲斐國と
申す中は徳々今も其奈
郡中足利の人後小橋
てふ所を以て奈は徳々
と云ふ所ありと云

下は山田の浦

生田社の馬場うまばた八町許
 たる小梅樹こばなまゝ入る双樹
 あつきのゆかりとまを志
 層々かくれゆくやけりもの
 日かげのうらやみ初花
 灼ひそめく遠近とほとほ入る公
 神籬かみかきふき居いくく藤ふじ葉は
 とるも南社の所ところ神籬かみかき花はなを
 愛あいし申まを威徳いとくの轍わだちれそ
 ちいさけり

石田友汀画





雷聲と出して百万の
 軍勢を塵とせんとする
 雄力の中、家来の海
 と腹いさしく、凡流と
 勝つる楚の鬪、廣郎
 の師を敗し、茂林とや
 いふなり

友門画

ま本 伊豆一い田の杜杖風も萩の葉よりや身共をえん 後成
僧都 法胤古蹟 生田の東小庵居に 系考のむすこやむす

網花 若と海を向まゝお父海の國は生田の杜杖のそ風 信都法胤
のほろろれといひつりてまろ

生田浦 東に脇濱有の神戸よりまろ 立降せぬとてそわゆるゆふれは生田の浦はさやせとれ 漢人よりん

ま本 實さひら活田の浦ふまはそ波口の身はそやせとれ 漢人よりん

六帖 ちとやふかりひわひけそいそそ活田の浦身そやせとれ 賀茂を保

生田海 五季 海の國は生田の浦はさひらとれはさふりてまろん 漢人よりん

生田磯 社お馬場元の磯に 丈夫 波あらしの仲のそとそはさふりて生田の磯ふとそとそ又船 存家

生田小堂 生田山より海辺

若菜調貞 寛保郡中尾村の人 生田浦より 若菜と 漢て 海をそそ生田の小堂の秋風やそそ色はく社の人か 定家

ひつきの 宇波 天皇の御時より 終るとや中尾原平を亂るひつきの 宇波 天皇の御時より 終るとや中尾原平を亂る

生田川の東に 生田川の東に 生田川の東に

東中尾村に 東中尾村に 東中尾村に

本願寺に 本願寺に 本願寺に

天子一献ら 天子一献ら 天子一献ら

同のそとそとそとそはの國は生田の小堂ふつふ持らん 漢季

内藏寮より 内藏寮より 内藏寮より

寛保年中より 寛保年中より 寛保年中より

七種の若菜と 七種の若菜と 七種の若菜と

若菜と奉るより 若菜と奉るより 若菜と奉るより

供牛あり其さくくいあか。其葉葉葉。菅菅。葎葎。河河。あひ。芝芝。蓮水蓼蓮水蓼。あま松とみくうけ松の家北半白川院の時時神を小
神為有くはあ松とまきくこわのと漬へおけ半あきく侍らる
甲と松をそくく奉るこてひひが半あきくと上皇被作侍らるる
あ葉六七種れ物也薺薺をまけけん形す。後。神れ在る
なり正月七日十七種の菜蓼食をれを其人あ病ふし又邪れ
そのぞく樹侍らると刀くさるる云

小松をさるるよきひひをくられてわおのつふささくさくさく
按さるる生田のあ葉ハ蓼葉なりハハ半頃小曰蓼垣のああハ十二種の中ふあま
あり海蓼の類ハ蓼葉なりん。

生田一宮

小松村ふあり生田齋神八葉の其一也今天満天神と称は

神戸

地名ハ生田社の西南あり町懐さく二ツ茶屋走水の末村あり
廻船船般ハ地あり俗ハこれと稱持といハ土人口稱ハ日
神功皇后御産所ハ廻船ハ廻船ハいひてさくさく異故

三宮神祠

神戸村ふあり生田齋神八葉の肉之

河原兄才墓

神戸村田圃の中ふあり嘉永二年二月七日

我ハ故教多討ふしつあ家の軍卒信中國恒人
直名色に弟がまに中つあ家の軍卒信中國恒人
正家お治たつあ家の軍卒信中國恒人
あり源家謙證の後右大將賴朝公よりさくは原兄才
の菩提寺ハ建られんる天正年中の乱ハ書ハ今ハ
源上にたねの遺まら

馬塚

河原家の側ふあり河原兄才の騎捨馬也せし小籠

花隈古城

神戸の上方面に築村あり永禄十年織田信長の命

仁年荒木村等の野志摩古村正されお守りく居城ハ密小
信長怒り村中の家長母口お守りく居城ハ密小
利かくして野に討死は其後赤願寺の軍將兼赤願寺根素
の被さるるのハ城ハ籠ハ沈田信賴墨江北中宮ハ搦へく
されお攻り終ハ天正八年七月二日小籠城ハ今ハ古蹟在り

再ふし度び山え
大龍寺



再度山火龍寺

宇治郡村上方十八町小あり坂路を町毎に標石を
建ふる古義興言宗

本尊如意輪觀世音長二寸八分 中若立同尊弘法大師化
長三寸五分

若立同尊弘法大師化 脇士不勒堂
弘法大師化 不勒堂石像不勒堂
弘法大師化

行者堂弘法大師化 稲荷祠山領者
弘法大師化

真院大師堂弘法大師化 關伽丹弘法大師化 梵字石日新小あり
弘法大師化

馳谷山あり弘法大師入庵の時法意觀風
弘法大師化 龍神弘法大師化 龍神弘法大師化 龍神弘法大師化

弘法龍弘法大師化 小屋場弘法大師化 系標龍弘法大師化

中地藏弘法大師化 小屋場弘法大師化 系標龍弘法大師化

支那山弘法大師化 摩尼山弘法大師化 群山弘法大師化

層々弘法大師化 道危險弘法大師化 湊舟波上弘法大師化

の聲あり南と海水弘法大師化 湊舟波上弘法大師化

泊船驛弘法大師化 のり人其風光絶妙弘法大師化

か一押し寺の由致弘法大師化 小神護景雲二年弘法大師化

清麿老僧弘法大師化 寶珠懐小入弘法大師化 如意輪觀世音弘法大師化

精舎弘法大師化 延爲甲申の年弘法大師入唐の時弘法大師化

日々小彰弘法大師化 延爲甲申の年弘法大師入唐の時弘法大師化

本尊小求法弘法大師化 預ひ其後大同年中弘法大師化

あつて再び弘法大師化 故小再度山の跡あり弘法大師化

駐之密法弘法大師化 一澤水弘法大師化 小と致弘法大師化

涌出弘法大師化 今の加持水弘法大師化 又窟中小弥勒弘法大師化

不勒等の梵字弘法大師化 別は聖相弘法大師化 累る弘法大師化

燼と成觀應二年弘法大師化 赤松弘法大師化 範弘法大師化

新小結弘法大師化 椽又田園弘法大師化 杖十頃弘法大師化

寺者弘法大師化 本別名族弘法大師化

裔比丘若妙と延く中祖と永和乙卯の妻 後園融帝御不削
あり諸僧小勅しきれ瓜穂に効あり若妙若命あり其
法と試ふ小七日し平念一由一 皇太后欣悦ありて若梅及び
寶異枚種瓜賜ふ若妙迦後小造んて戦國と成津剝荒穢と
實文年中南都招提寺沙門實祐未居して興復の志願あり
不存ありて化次其徒賢正上人先志瓜志に人のめく堂舎と
創は毎年二月十八日觀者會と殺く四方の道俗陸喜瞻禮し
郡系とる半幢とて宛縮麻のぬり

多々部古城 赤松信濃守則兼足寄うた據 楠氏の備は
其の赤松屋敷助藤城とていふはまは高嶺あり北一の小徑
ありて盤廻峻嶒小達は概小松少兵衛の軍 蛭野のぬり
梶原二之懸所 標石とてあるは梶原二之懸石といふ
梶原父子は田代燕の逆茂本とていつのけさせて城中へ攻入つて男平次
系為若駈しられ父平二使者はそそ後陣の勢ははらうらん

先づけたらん若身貴あるはた中々將軍の信せといをせられ

そのぬれたりつてなるあつと弓引たり人の心そののくを極ちける
景季は服所 城ヶ口村あり服梅は生田の社内ふ
源平盛衰記云 古の伝とていふありといふ

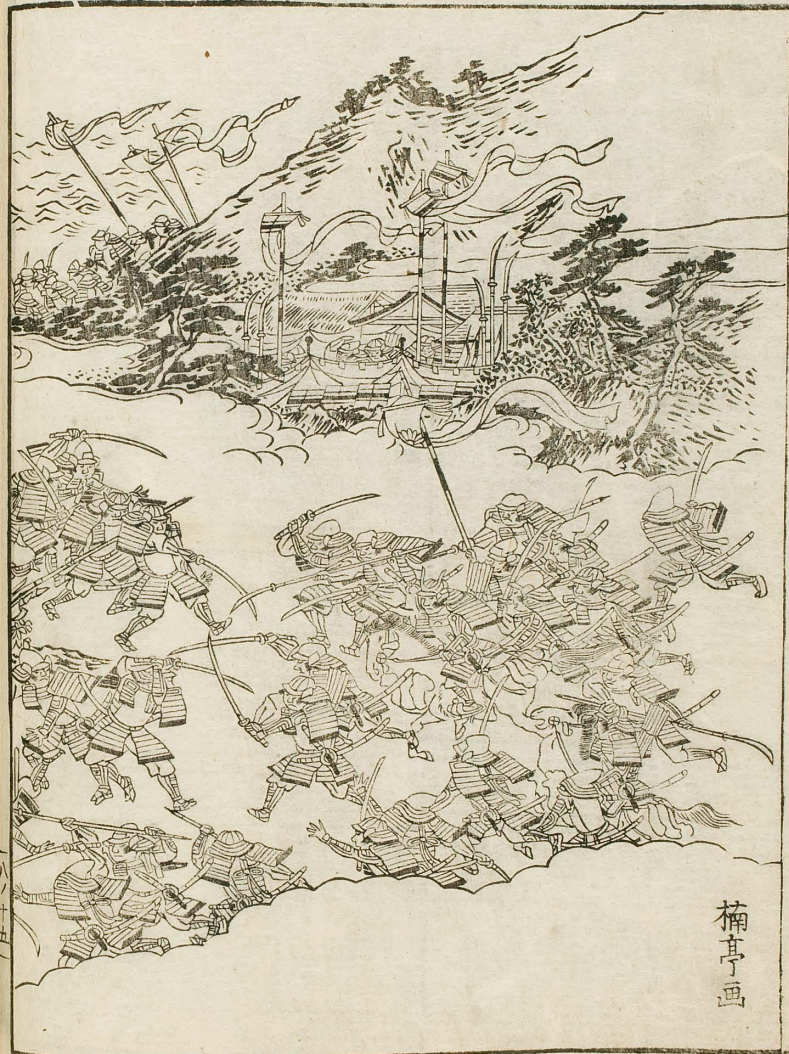
梶原源太系季は公の剛も人小揚まをたる道もあふたり嘆れと
ふる梅の枝と服小流へ花梅をりるやま梅の花ありなれも若
梅とて残る系家のきんちりた服とてやう之豔とほ小を感とける

宇治中流 宇治山中より流す
山路古城 中宮村あり赤松備後守信隆判官
若見亭古蹟 奥平村あり橋系郡の川にその時系相國とてたて
湊山 志保の北の方
新勅 藤原村あり

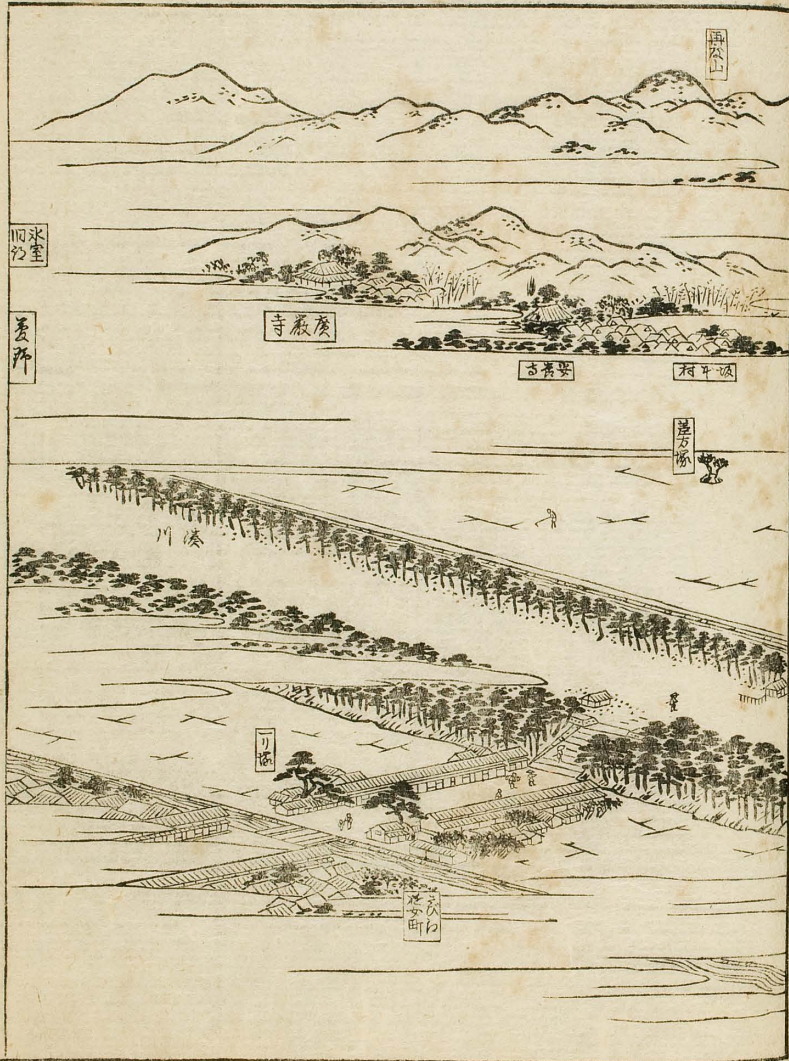
みちのこをこふ小吹汐風ふそく梅のね波ややらん
子為流 淡川の川上石井村
源平のたひきあれそあそふあつた小汐を備ふ

法徳寺
た大臣

楠足利
の
血戦
川



楠亭画



漆川

楠正成墳

漆川覽古
長松堤上櫓臺
蒼古戰場頭爵
相望護者忠臣
與黃土天涯靜
處客心傷
岫夷 秋元以正

宇山

楠正

山

氷室

長所

寺殿

古基

相平坂

湯方

川

文町

文町

湊川

湊川の北流あり、お原丹生山田東小部西小部藍那小河等の湊川
 三流會一と石井村に至り、又鳥籠といひ下流を底津平
 至り、海に入らば流す少く水確に舟車多し、古石井より
 榎下山の麓と云へ流すを底の町の酒より大和田侯あり
 海入平相國を底築造せし、今の時供水の難成、遊んるに
 今のぬく川遠ひありし

日

湊川よりきひの底なきとある生田の奥にありし乃聲

去那郷 籠兼

風報

湊川東にありし追風小麻の舞さんせを渡す

道園法師

新給

みかとの友のりそむく縁を流してきたすのゆり

順徳院

新給

湊川より渡すく川紙く汐をせまる六月の辰

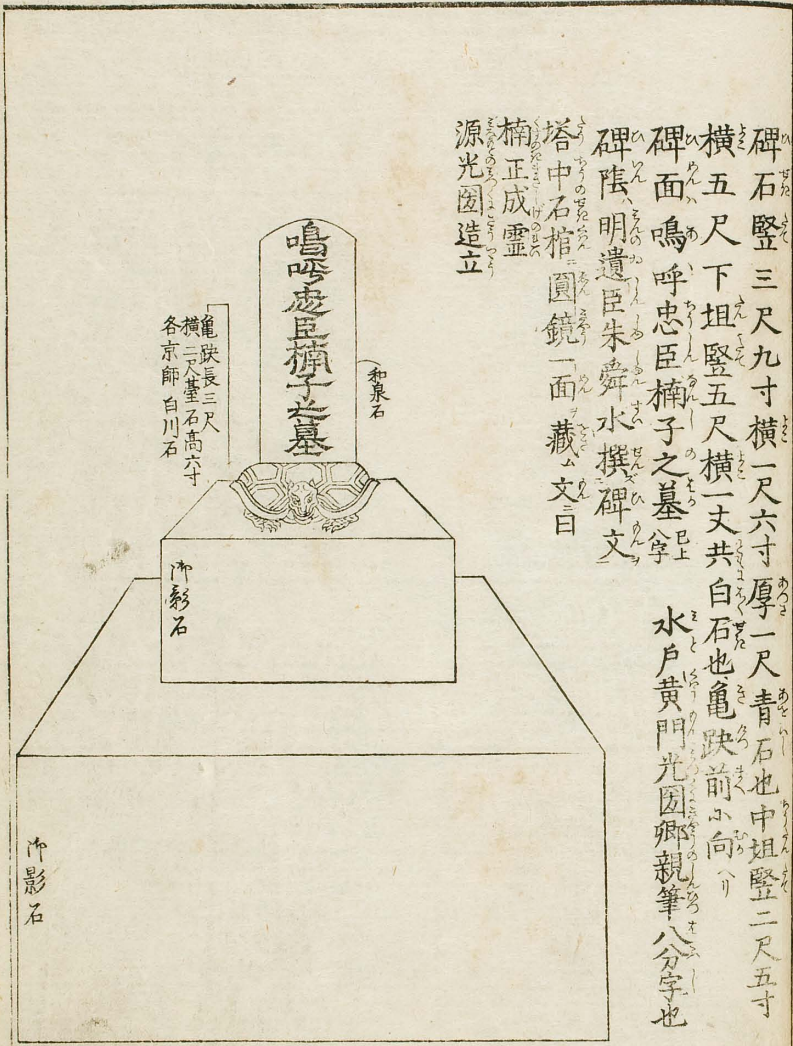
石井他言 岩相

楠正成墓

楠正成墓 湊川二所計、小坂本村田圃の中あり、初は一雄の墓のみあり、
 家上小松梅の二本此所あり、元禄四年水戸野田光園卿石碑
 と建てる、人従士佐々木助之助奉移、村光云、村不意、多く武士
 あり、く碑とここに遷送し、表の中、建れ、く、く、領主莊官あり、
 是、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 碑の、外、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 道、あり、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 楠公石碑之圖

内大臣

碑石 竪三尺九寸 横一尺六寸 厚一尺 青石也 中坦 竪二尺五寸
 横五尺 下坦 竪五尺 横一丈 共白石也 龜趺 前小向
 碑面 鳴呼忠臣楠子之墓 皇
 碑陰 明遺臣朱舜水撰碑文
 塔中石棺 圓鏡一面 藏文白
 楠正成靈
 源光園造立



碑文曰
 忠孝著于天下日月麗乎天地無日月則晦
 蒙否塞人心廢忠孝則亂賊相尋乾坤反覆余
 聞楠公諱正成者忠勇節烈國士無雙其行
 事不可概見大抵公之用兵審強弱之勢於幾
 先決成敗之機於呼吸之間善任體士推誠是
 以謀無不中而戰無不克誓心天地金石不渝
 不為利回不為害戕故能興復王室還於舊都
 諺曰前門拒狼後門進虎廟謨不臧元克接踵
 構殺國儲頽移鍾蓋功垂成而震主策雖善而
 弗庸自古未有元帥如前庸臣專斷而大將能
 立功於外者卒之以身許國之死靡佗觀其臨
 終訓子從容就義詔孤寄命言不及私自非精
 忠貫日能如是整而暇乎父子兄弟世篤忠貞
 節孝萃於一門盛矣哉至令王公大人以及里巷
 之士交口而誦說之不衰其必有過人者情
 哉載筆者無所考信不能發揚其盛美大德耳
 右故河攝泉三州守贈正三位近衛中將楠
 公資明微士舜水朱之瑜字魯輿之所撰勅
 代碑文以垂不朽

太平記曰

楠判官正成合資帶刀正孝
二楠實錄云初正成後正孝改名也
 字數三百三十字也
 碑文十行跋文二行都合
 遮く所方の陣と隔らう今も道はぬまゝと實をせいざる先常あるか
 款と一教一追撲く後口ある款小戦んと申され正孝可也覚候と
 同く七百餘騎と前後小まぐ大勢の中へ受る左馬頭直義の兵
 共蕭水の旗とんてとた款と思ひされ取籠く是れ討んと志されも
 正成正孝東より西へ破く通う北より東へ追懸けよた款とんか
 とは馳雙く組く落つ首と取合らぬ款とやと一太刀抄く
 懸ちくと正成と正孝と七夜合く七夜分は其心偏小左馬頭小迫
 附組く討んと思ふ小あり遂小左馬頭の五十萬騎楠く七百餘騎小
 無懸けらまくと須磨の上野の方へ引とる直義朝臣の素
 られうら馬矢元と蹄小踏まて右の足と引る間楠く勢小追攻
 らして已小討と給ぬと見とる素小薬師寺十帝次帝只一騎連
 沐の堤やとと合て馬より飛て下と二尺六寸の小長刀の石はた
 と取延て懸る款の馬の平頸胸へひの引とて切て倒々々七八騎
 の程切て落とる其間小直義馬矢素替く遙く落延ひ給らる

款と一教一追撲く後口ある款小戦んと申され正孝可也覚候と
 同く七百餘騎と前後小まぐ大勢の中へ受る左馬頭直義の兵
 共蕭水の旗とんてとた款と思ひされ取籠く是れ討んと志されも
 正成正孝東より西へ破く通う北より東へ追懸けよた款とんか
 とは馳雙く組く落つ首と取合らぬ款とやと一太刀抄く
 懸ちくと正成と正孝と七夜合く七夜分は其心偏小左馬頭小迫
 附組く討んと思ふ小あり遂小左馬頭の五十萬騎楠く七百餘騎小
 無懸けらまくと須磨の上野の方へ引とる直義朝臣の素
 られうら馬矢元と蹄小踏まて右の足と引る間楠く勢小追攻
 らして已小討と給ぬと見とる素小薬師寺十帝次帝只一騎連
 沐の堤やとと合て馬より飛て下と二尺六寸の小長刀の石はた
 と取延て懸る款の馬の平頸胸へひの引とて切て倒々々七八騎
 の程切て落とる其間小直義馬矢素替く遙く落延ひ給らる

在馬頭楠小退立られて引退兵將軍尊氏見給々悪兵入替で
 直義討と邪と下知せられまはる吉良石堂高上杉の人々六千餘
 騷々く湊川の東へ無生て跡と切らんと奪取する正成正康又取て
 是くけ勢小やま勢てい少遠て殺一駈入ては組て落之時う向小
 十六夜と闘ひたり小其勢次第く小滅びて後の終小七十二勝小を
 成ふ多し勢やうも少破て落は落はううううう楠宗分出より中
 の半今は是とと思所存有るれ一足も引は戦て機已小滅はけは
 湊川の北小處く在家の一村有る中へ走入く腹切らん小鑑小
 脱く我身と見く小斬一箇所をせ負うりうう外七十二人の者
 共も皆立箇所之箇所の疵と被らぬ者無くうう楠二族十二人
 の者六十餘人六箇の客殿小二行小雙居く念佛十返計同奉小唱く
 一度小腹を切ううう中畧 杯元弘うう已未泰も世君小憑も奉て
 忠誠殺一功小かと信者歳子萬をや然も共け礼又出まう後仁成

知らぬ者朝恩兵於く歎小属一勇あたる者荷も死兵を存を
 刑戮小遇ひ智わた者への變兵辨甘くして道不違半半のそあり
 一少智仁勇の二徳兵兼く死と苦道小守るる古うう入く小至るやを
 正成はゆの者小未無てはる小兄弟共小自害一ううを聖王再び困と
 久して逆臣横小威と振くぬた其表のまううあれ云云

類補廷尉兼 倫勤王 事遂無違 致ス命ヲ弟一兄 心相ヒ依
 春日經深川 顯傳兼 今看 田間 餘基 石ヲ離々 未一泰 波 露衣 杉美仲
 遠説 卧龍 絶古 今元 弘 危 急 存 亡 仕 其山
 暗 振 奇 策 倚 金 嶺 巧 用 英 謀 屯 笠 峯 熊尚之
 諸葛 一身 疆 武 節 連 楠 三 葉 富 忠 心
 堪 憐 古 蹟 松 間 下 百 轉 鶯 歌 自 好 音

醫王山廣嚴寶勝禪寺 楠公の碑此上方之所并小あり坂本村とりふ
 傍正成の菩提所あり

本尊藥師佛 傍正成の菩提所あり
 毘沙門文 弘法大師の作長を尺六寸

尚寺開基元亨元年の表元九圍より来朝せし俊明極くは智徳
 兼徳の禪師之具に都小生く泰内せし時 主上 後醍醐天皇
 翻帝 崇徳殿小殿く

河相着の向く勅向小曰棧山航海得々未和尚以何度生禪師答
曰以佛法緊要處度生 重て曰正當恁麼時如何答曰天上有星
皆拱北人間無水不朝東 河法選畢之禪師為揮之退出之
翌日別當實世卿と勅使之禪師斃之賜之る爾禪師勅使に
向くは君亢龍の悔ありといふも二帝位を踐せりといふ河相あり
と我申されたる事太子記ふより又寺説曰楠公の一族十二人古率
六十餘人ひ寺ふ入る建武二年八月及自戰死に禪師即遺骸と踏債
小森防今の墓碑の地を本堂と瑠璃殿と楠公楠公引導の所なる
よめく甲冑の儘衣冠の教相共佛殿小安次落柱左右の聯板小
書して曰 岡山佛日嶺惠禪師明極和尚示建武二年九月廿七日
尚寺付室小楠公碑表建武二年六月廿五日 日十二歲
正統元年の軍配圖藤采幣率小楠公真像の書鑑あり
其文曰
あつて美緒つて
河相上人より事能事案最後を

義重不更難達之徳勤學を怠りたるは
繁ん中てをさくはき
建武三年
正月
河相上人より事能事案最後を

八之宮六之宮 共小坂中村あり生田齋神八茶の内之山所の生土神とい
安書寺 坂中村あり大眼山と号次初ハ尾碓小あり其領主青山大厩亮
安徳天皇行宮 荒田村あり原ハ池大納言頼盛の領地あり山莊あり
石井温泉古墟 石井村あり昔ハ新温泉あり其由縁の一章之庫
願成寺 往建武系系村あり法然上人の清實子住蓮坊々に菅園居
小宰相局塔 平通盛卿夫婦の菩提を了る所なり
三年二月十日は仲より谷より岩と投置し終り嘉永
其由縁の住蓮坊は居小通盛主障の跡なりハ塔は建武
所ありハ塔は住蓮坊と
今小形くハ塔は

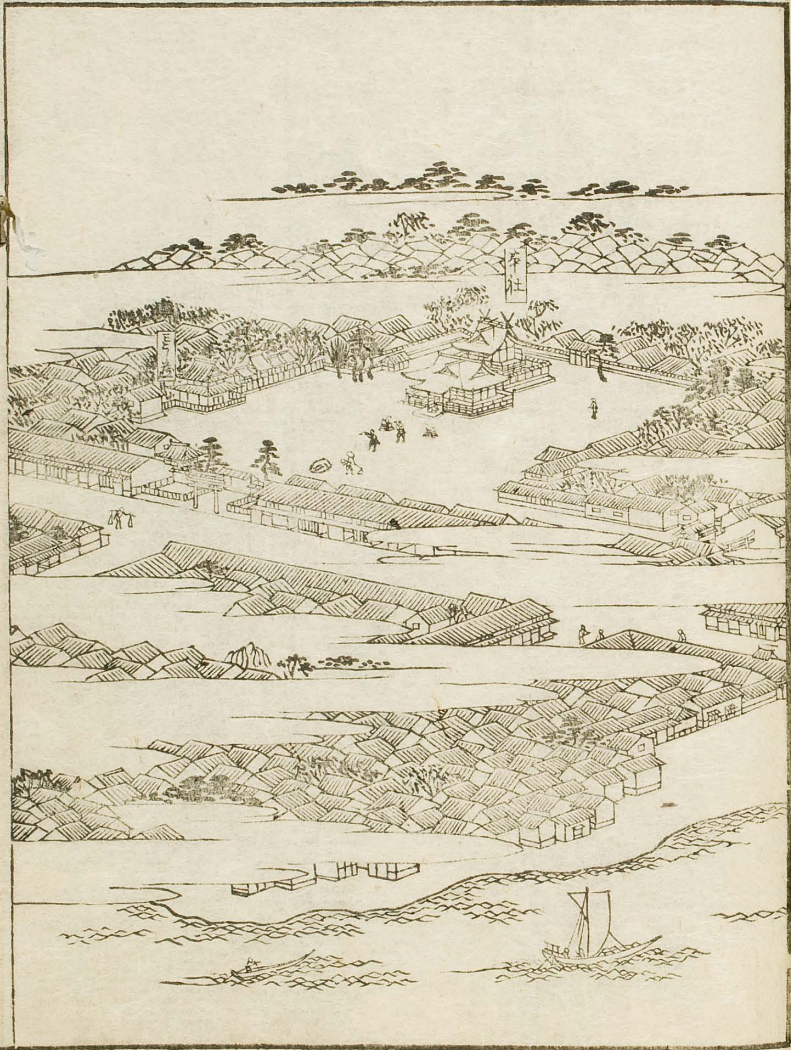


紅おーろいの
 花の敷
 佐比江
 日々ふ
 新



佐比江
 水

丹挑漢画



多
兵庫
七宮

凍
一
走

つ
大坂
一

走

斑
味

大坂
海
の
つた
ふた
り

美野 美野川の田七小あり郡家ありく美野村といふ攝津志揚湯

の故幸れおあめふついく美野と号する是又美野の名よとせ
げいく藤の故幸成 命せより是れ故幸 攝津國風土記正
く龍伴郡とあれ今大坂御城の東大友村の是るはる
か我の也といふ是よりく 俗名 美野の旧名成よこの人といふ
あまふふく

美野清水 美野村山中あり相傳ふ北條守教絶の陣所と申は
山の上望之瞻野中有物其形如盧遣使者今視とあれといふ美野ハ

山中よりく 野中 あり 又皇子 廢彼高津宮より 十里 餘も 遷攝小出甲人 奉
た 今 是 山 邊 入 湯 以 近 年 山 邊 始 る 人 多 宗 祇
方 角 抄 小 美 野 八 毛 屋 あり 北 條 川 の 邊 と あり され

宗祇の他よりあり 土人氷室 祠と称に入湯の人

美野天祠 美野清水のあふあり 土人氷室 祠と称に入湯の人
け祠と稱にあり

福原古都 美野村の東北田の中あり 宗上小古木成植より 新都九毛の條法
荒田 石井 美野 鳥原 坂本 今木田 新田 藤原 等成

美野村の東北田の中あり 宗上小古木成植より 新都九毛の條法

治承四年六月五日新都の事始として上卿官人達和冬の松系

為の事成點讀して美野の地を割らば多小上一條より下を二條

盛衰記小入より

差方家 荒田村の東北田の中あり 宗上小古木成植より 新都九毛の條法
あは成極とあり

治承四年六月五日新都の事始として上卿官人達和冬の松系

為の事成點讀して美野の地を割らば多小上一條より下を二條

盛衰記小入より

差方家 荒田村の東北田の中あり 宗上小古木成植より 新都九毛の條法
あは成極とあり

治承四年六月五日新都の事始として上卿官人達和冬の松系

為の事成點讀して美野の地を割らば多小上一條より下を二條

盛衰記小入より

差方家 荒田村の東北田の中あり 宗上小古木成植より 新都九毛の條法
あは成極とあり

治承四年六月五日新都の事始として上卿官人達和冬の松系

為の事成點讀して美野の地を割らば多小上一條より下を二條

盛衰記小入より

中七ありてそれより下無き多し土津内宰相道親卿申され多し唐土
 其の二條の度路を開く十二の通門と名つけたり況や五條をあれん
 都小なる内裏と名つけたりといふ卿一月小なりしなりし平相國不負を

ふれりや平家物語小見ゆ

兵庫津

福永庄海陸都會の地と稱せ四十名を海道の驛あり
 兵庫津と名つけられたる要津の官道小園方小浜有後等の名
 あり一名武庫水門武庫の倉庫の所或ハ輪田位と名つけし諸國の
 商船あり小倉と名つけし風俗の采積の窺ひ諸品交易の時
 小倉の賑ひ益者の口をあらさす繁華の地と稱せし剛あり
 東部の風俗益者の口をあらさす繁華の地と稱せし剛あり
 長と半冠郡那保江浦小遊々毎年三月以千の時ハ
 必を見ゆる之天長八年三月入輪田位に造りし使
 遷替成定より即ち又承和三年入唐使の船と稱せ
 小倉のふと古記小倉ふと平相國の時より築成稱し
 今この山より小倉ふと平相國の時より築成稱し
 西北の山より小倉ふと平相國の時より築成稱し
 賈買ハ天正以後の事あり
 日本紀曰
 孝徳天皇大化元年於園曠之所起造兵庫收聚國郡
 甲弓矢云云

武庫水門

武庫水門云々津と

神功皇后之船廻於海中以不能進更還務古水門而下之云

築寫

日本紀曰 築寫はの名経橋といふ今之武庫津の地あり平相國遷都の
 海而三十餘町成築如半成度なる小築也是を土石標
 惜むるが故に日龍神ハ海庭小位と稱せし令に考
 上大小の石ハ一切を若馬一海庭小蔵めくし
 築寫ハ名経橋といふ今之武庫津の地あり平相國遷都の
 海而三十餘町成築如半成度なる小築也是を土石標
 惜むるが故に日龍神ハ海庭小位と稱せし令に考
 上大小の石ハ一切を若馬一海庭小蔵めくし
 築寫ハ名経橋といふ今之武庫津の地あり平相國遷都の
 海而三十餘町成築如半成度なる小築也是を土石標
 惜むるが故に日龍神ハ海庭小位と稱せし令に考
 上大小の石ハ一切を若馬一海庭小蔵めくし

元年の末に成つて繁るは終る成入又石櫛小松王を入て
海産小院に龍神も蔵應ありたりや繁禱の功ふまはり
其院より新に寺を建たれり今この繁禱寺あり
人権小寺あり
佐比江 去處傳ありは地は上方より入口ありて
後客の社あり

若狭守経基墓 佐比江の麓の小あり 柳小梅若狭守あり 平相國史記
の傳ありて 金官太夫

七宮神祠 別當神宮寺
祭神 八幡 天照若狭守 庚申祠 神樂蔵の
末社 柳若狭守 天照若狭守 庚申祠 柳小梅あり

經馬山末寺 山頂にあり 本山阿彌陀佛 觀心禪宗の化

鳴伊養本尊釋迦佛 天竺僧曇彌夫人頭の黒髪とりのりく 燈の
赤財天 弘法大師の 平清盛鏡象 年五十四歳の時みづうり 画さ

松王小兜像 長き尺平相國の他へ 梅實伽藍彫刻 梅仁寺
右伽藍の圖と柳あり 觀音堂 本堂の西 鎮守 柳若狭守
具於 什家寺

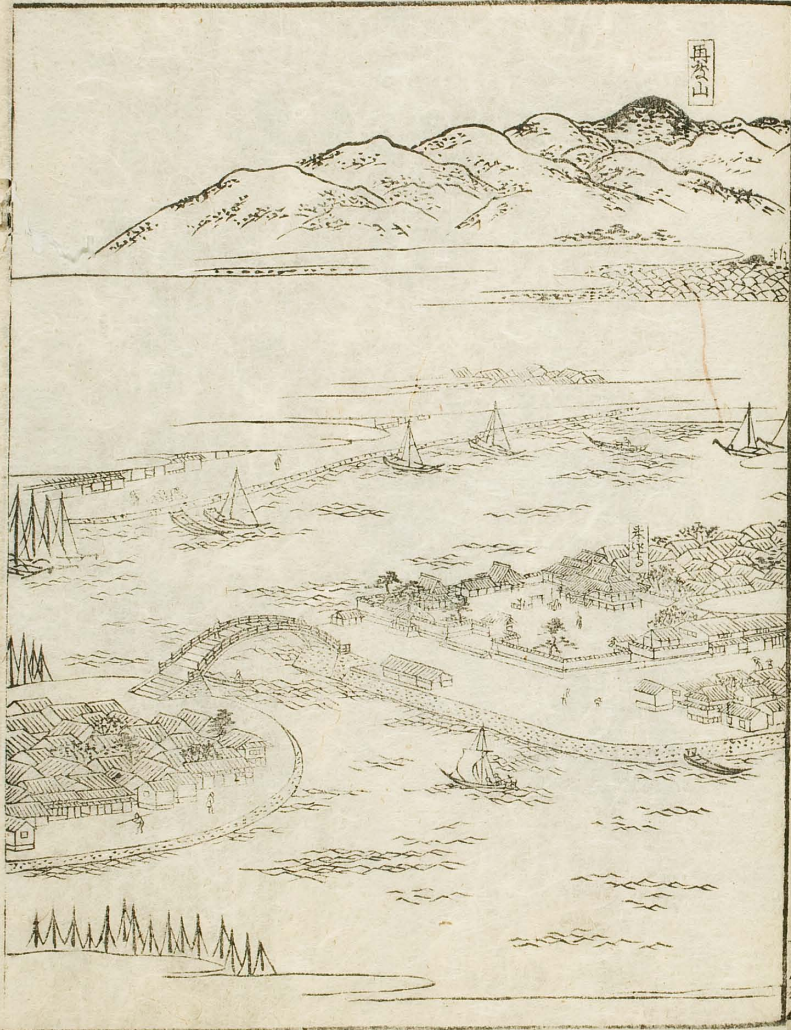
地藏堂 類小 松王人柱中石 本堂の西

丈壽寺 應保年中松王小兜は新しく人柱中しく海産に
倫没し 遠く築港成たり 其時佛供書少 叡山の觀如上人成

信し 子傍成集り妙典と痛し 今も神梅山の嶺より 柳若狭守の
うふ護難し 七重泉若樂成奏に 其中小松王の如意輪觀音
と現是光沢放く 善持の石の縁より 今も平相國 龍宮受り

五条大納言國綱卿小令 伽藍建堂の神教書成出は書簡
今も小什室に 今も常念佛の道場中あり 不断院と稱す

世少築禱寺と稱ふる



馬山



兵庫築港寺

兵庫

寶積山能福寺

去産逆瀬川町あり

本尊薬師佛

傳教大師の作長き尺八寸五分所延曆廿四年六月

観音堂

平堂の欄あり十在観音安坐

真福寺

日町あり能福寺

本尊如意輪觀音

長六寸許逆瀬川石山寺武の本尊といふ小松

奴女おんな 著あき 提あき 瓜うり 子こ 小こ 徑みち 平へい 家け 一いつ 門もん の

和田笠松

秋風の吹来る者の村ありて宿める和田の笠松

本末ほんま 寺てら の 吹ふ 来き る 者もの の 村むら あり て 宿とど める 和わ 田だ の 笠かさ 松まつ

西月山真光寺

逆瀬川の南あり

本尊三尊佛

深院観音智王安坐

開山堂

一過上人の像安次

釋迦銅佛

門内あり鎮守

楯倉祠

平堂の側小

當寺へ 仁明帝の沛宇沙門惠萼入唐して宋王に謁し

大悲の尊像を授け既小帯帆の時風波穏ありて日背ありて

揺る惠萼思惟して是則大悲有縁の靈地とて遂に

當院と建立して觀世音安坐に建治二年相別為澤の元祖

和真一遍上人あり小止住して中興開祖とあり和真の縁別河母

通慶の子之建長年中薙髮して熊野権現の示現を蒙り光

勝のひを蒙り念佛を多く四衆を化す六十万人使定性生の

礼を弘め勅を蒙り日本六十餘別を巡國に正應二年八月廿二日當

寺小松遷化次一説五十一 又元禄八年八月十日四聖の遊移上人

尊通も當院小松寂次年八十一 中祖上人の側小尊為當山小竹室あり

管村自畫影人丸自畫像定家卿の 紫雲名號中祖上人の尊之

其外救々あり小畧を一遍上人の傳記に東海道名所

圖會あり

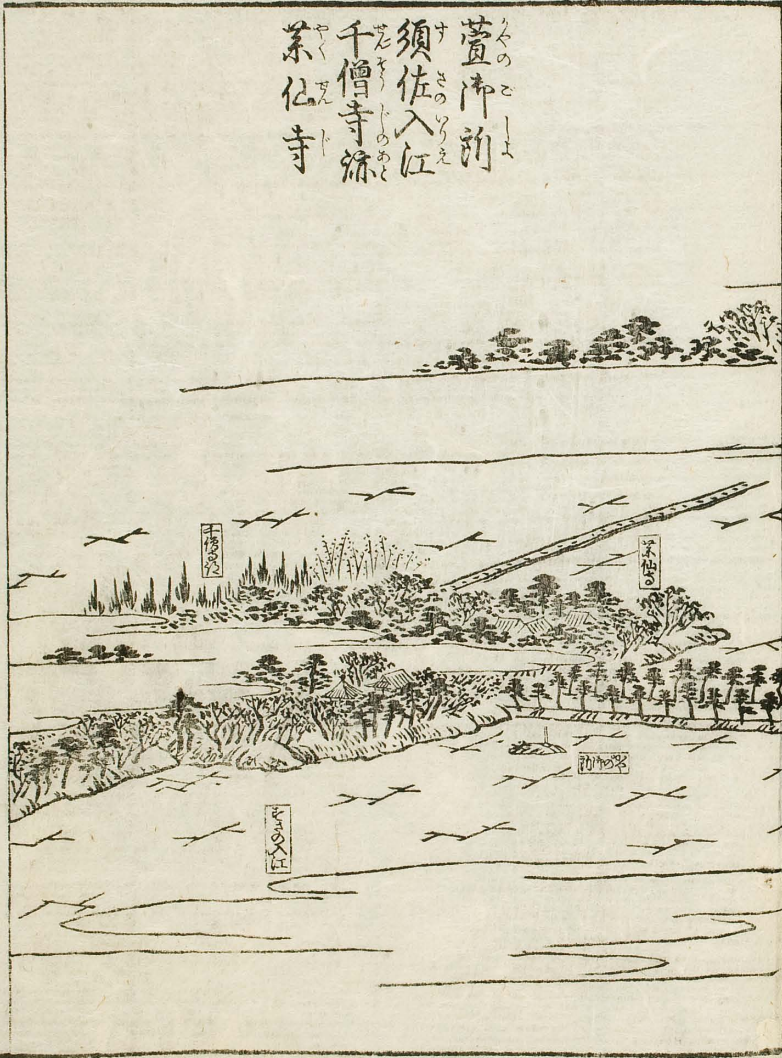
兵庫
真光寺
和田笠松
御勝橋



新居
又智心所親家智
といふ事と
庭邊く
まぐろの水と
さうぼり寺ハ
いづくところの
さちととも
えん
八道茶園白く家官



萱沛の
 須佐入江
 千僧寺跡
 茶仏寺



八棟寺旧蹟
 平相園法盛塔
 平鏡政琵琶塚



八棟寺齋蹟

真光寺の南あり平相園の建立あり諸堂魏々たり
太平山といふ天正年中火災燬れ元亨釋書云兼安
二年堂道場於福原修法義

平相園清盛塔

日所あり十二層の石塔婆之高式六尺六寸
二月廿二日清盛薨せられ後百餘年感く此條
七代最勝園寺平貞時石塔婆と造立次第朝編年集成曰仁安
二年十一月清盛利髮法名倭海菩提元平園二月四日西八條館に
於て薨去せしは年六十四翌日燈とあり遺骨成國實法眼六乃
福原小持來りてちて藏む

經政琵琶家

日所あり經政一谷合我小討死しけり
經政の琵琶家小堀瓜繁たりといふ人平相園の舎主なり
琵琶の師ありて太夫教盛の兄之琵琶の師ありて
琵琶の師ありて太夫教盛の兄之琵琶の師ありて
琵琶の師ありて太夫教盛の兄之琵琶の師ありて

經政の幼少より仁和寺淨室淨所小を形みく仕りれり
念劇の中小君の淨名珠と云ひ出り五六騎召具りて仁和寺殿へ
馳参り今日既小海千里の浪路不勤た候へ淨所乞のる系上
仕り其上先年卜一頼有り青山の琵琶持世泰の候
名珠の盡を存せられしとも我朝の御寶を田舎の塵に成ん

半に惜し候へ糸を世に候へお不思議小運命啓けり都立
帰る事えり其時を卜一頼有り青山の琵琶持世泰の候
哀小思ひく一首の淨所とありて下されり

經正小淨視とされり
あつて別り若く名珠とを後の形見ふつみそとく

吳竹の眞の如かれと程をよめぬ宮の内より那

叔經正淨若成はりゆられり小叔世の形出世者坊官侍士傍侶
小至つと經正の名珠と惜しむとあり流し神成瀧ぬかうけり
中にも幼少の時小師ありて坐せり大納言法下り慶と中兼室大納言
光頼卿の仲子と傳ふ名珠と惜しむとあり桂河の端より打送り
信く帰らざる法下位を思ひ續けり

哀とて若本若本も山極とされ先づち花を踐らト
經正也奇小

後衣よかしく御成やうきそ思へい我の遠くりめん

さて巻く持せたる赤旗颯と指揚されをあそと愛小お侍も侍共
あつやと馳集り具勢百騎計鞭と上駒と早ゆく程なく御幸

小遣付も御幸青山と申御琵琶ハ終正十七卷の御幸佐の勅使と
兼く下られる其御青山と給く字依(兼)御殿お秘曲ハ彈

しゆひく供の宮人推並く緑衣の神とて絞ぐるは青山と申御琵琶
ハ昔 仁明帝の御幸嘉祥二年二月掃部頭貞敏後唐の御幸

の琵琶の御幸廉妻まふまふ二曲と傳く帰朝せし其御幸象獅子
丸青山二面の琵琶と相傳へて波とる龍神や惜々浪凡あつく

立たれ獅子丸と海屋小沈めぬ今二面の琵琶と波く吾朝の
御門の御寶く村上天應和の以ほひ五夜中の新月の色清く

涼風颯々うう一ね半小 帝清涼殿うく玉象とて遊されける
村小殿の如くある者御幸小春とて優小氣さる聲とて唱歌を同出

侍。帝勢く御琵琶と聞せゆひく海如何ある者を伝くよう来たるを
と信せられを巻く我はれ首負敏小之曲と傳ひし一唐の琵琶の御幸

廉妻まふ申者うく候之曲の中小秘曲と二曲疎る罪小く今
魔道小沈淪侍る今昔君の御撥者妙小聞侍る向者内侍るまわり

願ひ曲と君小授けをうく御果瓜得んとく青山と取傳り拾く
秘曲と授ける二曲の中小上玄石とれ其後の君も是れを給く

遊一彈トゆまもかうりる仁和寺御室御前(兼)給く一瓜は
終正小下一給へつや甲(兼)紫藤の甲夏山の象は藤樹の木同く有明の

月の如くと撥面小まねるる故小おき青山と名付られける
須佐入江 琵琶源の末代今今いみか田園とあり萬葉集未考園

わかれとむ次ゆめ入江とてあめのおねとてうく給くあて
わかれと次侍の入江はまもめも風を吹しはく給くお小たり

は奇類字わ奇集小拾俵とあり契沖の吐懐編小雅一と曰されは万葉集十に末ふありの
とむすこの入江を和らる園末おれとて末あわれは拾俵はあはくは云

権大納言
承朝

已上平安御抄
久慈

漢古

夜をききすこの入はつる子もさそふ氷の月にかく
入るこころ渚沙の入りし川ゆのゆりや人小忘らる身ぞ

菅御所跡

清盛塔の南田の汗石標ありむらうは迎都く平相園別荘乃
後白河法皇が押籠まら又櫻沖所とむりへ相傳つ治承四年七月
十日日文貴法降参んく伊豆國の祝所よりまらひ前みく
院宣が申うけて休親朝之小平宗進討成進一とせ

項年以治平氏薨如王化無憚政道欲破滅佛法乱王法夫

我國神國之宗廟相並神德惟新故朝廷開基後數千
餘歲向欲頽帝位危國家者皆無不以敗北然則且任神道
之冥助且守勅宣之旨趣早亡平氏一類退朝家悲歎繼譜
代相傳兵略抽累祖奉之忠勤可立身興家者院宣如此
仍親達如件

治承四年七月十四日

前右兵衛督光能

前右兵衛佐殿

藥仙寺

清盛塔より南武丁許小の醫王山と号し時宗坊舎七宇
初ハ天平年中より基菩薩の廟基之

本尊阿弥陀佛

性右の卒きハ茶師仰りて天台宗之又開基より二十五代真如坊小至
く茶師仰土中出现の蓋佛あり今ハ安並使
觀音堂 本堂の後小あり 聖武天皇中惛平金乃を先
六寸の蓋縁ハ安使其後不初者現門天の二階と初願寺
の蓋縁記二卷ハ持來せり老翁忽然中より方か一師是之
願士くしりてち予安並は老翁ハ谷の 壺泉 觀音堂の東
觀者之應驗之とせくく下け内

為院建武年中

後醍醐帝隱岐國より還幸の時時不條
ゆすはふらりて壺泉を以て茶葉が潤進一なる予忽

浄土念おり

ちを因茲茶仙寺の辨を賜へ厥后延文中茶師
靈山國阿上人あふ復一時宗と改申

大般若經理

品を卷あり 什室小 後醍醐 奉之十二圓の
表具ハ蜀紅飾あり 聖忌小國阿上人書寫一り

千僧寺旧跡

茶仙寺の南あり古跡今在津津の三昧とありむら
萬年山と号し解脫上人の廟基之り基傍にまら
来つて一ふ人の傍に聚く供書ありより寺の号と次又降土
正源名義集曰兼元年中法然上人預別下向の時山寺ふく阿弥

陀羅尼一ふま念御一而萬遍と修して
法會としひひ入聲地と云

六字石塔 法然上人の等跡の如の法蓮の時供養のたみあり小建人

真御堂古跡 宗仙寺の東北小あり相傳て大織冠の本願あり小称名寺

持けしゆ真御堂といふ本尊小表々龍宮城より諸真あり小龍燈と

子自觀者々今結福寺の塔内小ありお小見えたり一説云

尚郡轉村若福寺の本尊地藏菩薩

新十載 志原林名寺といふ小はうり多道小小登の家といふ

月と見ておそのうはも慰らあやるさやの杖は面影 権中絶言 為明女

巨麓山福嚴禪寺 志原門口町小あり

本尊釋迦佛 佛殿小安ん座像 長三尺許

十一面觀世音 方丈小安ん座心うき座の西小柳の大樹あり其地成弊

舊門口品成補して大悲成信侯家窮乏貧く草鞋を能くす業

貧困あり供養會あり持小今青葉尾ありて教王の年成

迷ふれを同か成宿成求めるといふ異傳は明照破成不滅

成五人と成會成共小せんといふと成小成草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

成と成成成成小僧成成賞味し成小草鞋と成とれ成者成

を底の生割ハ今
 五部町の深ハあり
 乃不諸魚ハとまぐ
 混氣の好不便の
 用と良 林表候時
 網直ハと見より
 採ク半多一



秀雲真画

自然居士丹

極楽寺の願寺経宗久遠寺の座中少ありむ... 止後... 此法... 蓮華... 妙法蓮華...

之光山福海禪寺

当津柳京町小あり

本尊釋迦佛

併殿小安に運慶の作

開基在菴圓有和尚

建武年中將軍專氏之説國安氏の爲小... 經山無準和尚の法子元菴禪師四世の孫少く道徳よく徳慶く... 衆の爲小宗と云る所の人の貞和又年福月廿一日得法書一く... 世成諱を其偶小日

八十一年笑倒祖佛

句臨行寒山嵐拂々々

佛鑑嫡裔元菴真孫掃除枝葉布徹根源... 推輿名利無刀斧痕萌草一莖至元在法... 身堅固鉄渾崙

延文の秋尊氏之讎... 勝入福海興國禪寺と保善八幡后二代相國義満之も亦多... 山寺の跡... 存 左次既... 其より後今のゆく... 諸堂... 慶應とある

満福寺

当津小あり梅松山と号に時宗... 運慶二代の上人開基あり

本尊阿彌陀佛

運慶の作又什寶小管の御鏡あり... 運慶の御鏡あり... 薩摩守忠彦

二本松營

福海寺の西二町計小古跡あり... 建武三年

池田城跡

当津管内小あり左座城と云ふ... 池田信輝天正年中以津... 守備の時花隈城と號し其材石瓦様してあたる築く

兵庫生洲

當津南濱今左家町小あり長廿二間... 四間... 諸門と多く放生く考小... 生洲と云ふ... 諸門と多く放生く考小... 生洲と云ふ... 諸門と多く放生く考小... 生洲と云ふ...

興市

当津官の支町小ありされより西の方北濱者... 興市と云ふ... 運送...

喜多風家

當津小同姓の支族八家あり今北尾と云ふ... 喜多風家と云ふ... 家譜云

家譜云

神功皇后三韓退治の時以浦小津... 孝元天皇乃齋孫... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后...

皇太后

皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后...

皇太后

皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后...

皇太后

皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后...

皇太后

皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后...

皇太后

皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后...

皇太后

皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后...

皇太后

皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后...

皇太后

皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后...

皇太后

皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后... 皇太后の御孫孫家々の相あり... 皇太后...

のりが後世津土宗と改西光寺と号次發誓前孫乃姪
向翁と云ふよりけ寺と世小菴の翁と号今小至つて
支族の宿坊なり養曆より三十八代の後向翁養七弟
とつて若のり建武二年二月奥湖の國立北島中納言
新田左中將義貞の弟等足利尊氏と遊討のる云津
すく下着の附白菴惟村官軍小扇一諸軍と共小津
進と軍忠多一足利直義は軍小討負足利尊氏と一
成去津の伸小船やせり官軍は北風烈しく吹
艦を解つて舟をかく官軍は攻めつて舟をかく其
表へは陣只いとは小津小艇と稱す白菴惟村の一
二十一勝獅子八十七人陣を小艇にて日我の船を
蒐合の傍負ひ墓く發津ありて日我の船を烈しく
小舟と放ち尊氏足利と討つてはさなととていふ
一族のみ同意しされ発津の奇計と云ふにあらざ
一月小舟の流小舟は義貞の弟と云ふにあらざ
諸將命を賜ふに新田義貞の弟と云ふにあらざ
其の方へ逃遁せしなり新田義貞の弟と云ふにあらざ
其文二曰

白菴左衛門佐貞村軍忠之事

朝敵薄氏一類再擣御斧益茂於朝憲忽蒙天祿至干攝別
兵庫逃降之日貞村率北風之虛燒敵船終以十八騎屬於
逆徒二十万騎勝得一時乎兵器也可賞也最建武
天聰者乎汝軍立似北風烈々也自今以後改於白菴

爲喜多月也仍而如件 建武二年二月八日 義貞判

け感状及び其時賜うたか一振今小舟は喜多月と云ふなり
其意を記すに云津ありて其意を記すに云津ありて其意
業と云ふに云津ありて其意を記すに云津ありて其意

輪田海 舟の泊とあり大和田の西成郡とあり

和田の海小舟の白岩さかき波のさくら小舟をさかきむ

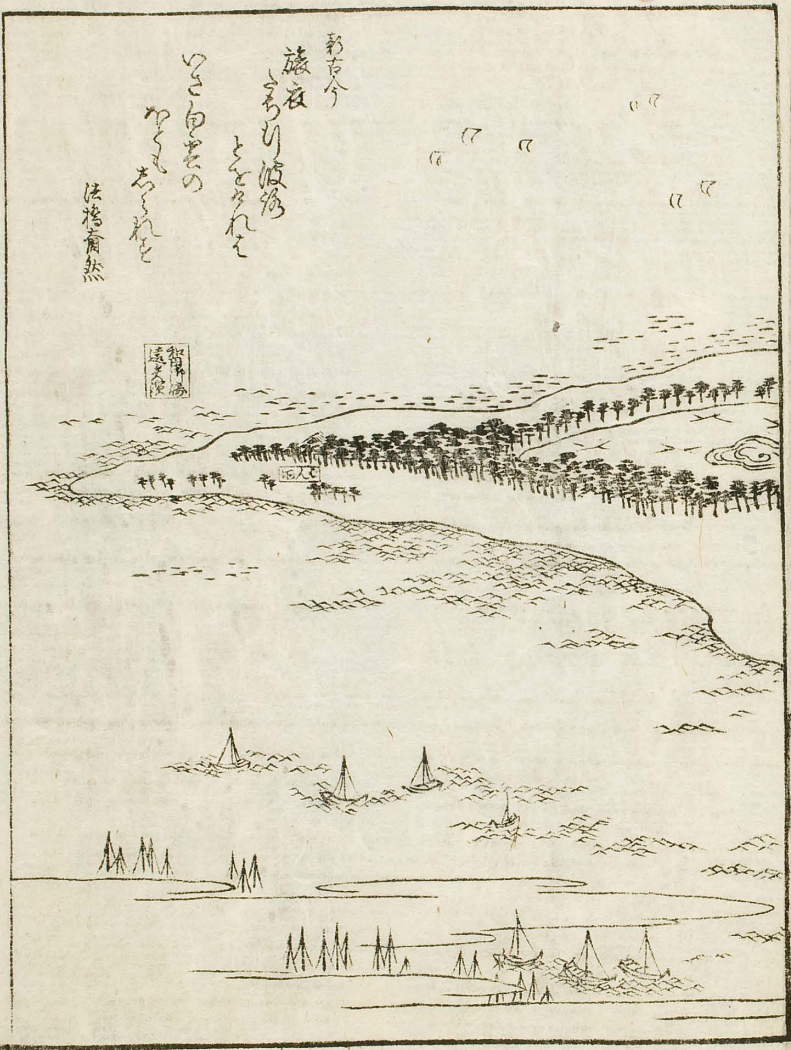
和風すえて吹く藤田の海北沖ある玉藤のつくとす 日
和風すえて吹く藤田の海北沖ある玉藤のつくとす 日
和田入江 舟津小舟の入江と

和風すえて吹く藤田の海北沖ある玉藤のつくとす 日
和風すえて吹く藤田の海北沖ある玉藤のつくとす 日
和田入江 舟津小舟の入江と

和風すえて吹く藤田の海北沖ある玉藤のつくとす 日
和風すえて吹く藤田の海北沖ある玉藤のつくとす 日
和田入江 舟津小舟の入江と

入道宗 大政大臣

和田社
和田寺
遠矢濱



新古今
藤原
まわり波落
ととたれを
いそぐまの
やまを
あつれを
法橋齋然

和田社

和入

和入

八ノ下

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

系神天清中主尊 一統國常之尊万法二年六月廿三日 武庫郡
向松小止り申入故ふきた事ある例系と其田所用の神事和田神所
よりつらり申入故海の船渡時此彼の神所と云ふ必其驗あり

經子祠 本社のたふありは所 存財天祠 六社の存財あり其社一社の
みか平相國 親孝堂 社願あり十一面親世若安次傳教入師の
安次出社の 親孝堂 社願あり十一面親世若安次傳教入師の
安次出社の 親孝堂 社願あり十一面親世若安次傳教入師の

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

燈燧堂古蹟 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

燈燧堂古蹟 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

燈燧堂古蹟 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり

和神祠 和神の神所あり南後所中の生土神と云御祭五月廿三日
天台傍に於て守る為律儀禰寺の系帶所なり



石田又訂画



六輪日堅陣と階
 強敵と敵と大黃森
 運別飛鳥雷景を
 り(分)夫(分)奔(分)府(分)孫(分)作
 石田(分)作(分)奇(分)之(分)遠(分)矢
 射(分)ん(分)た(分)く(分)ふ(分)け
 晋(分)品(分)あ(分)る(分)ん

遠矣濱

和田清崎とて、建武二年五月、遠矣濱に籠居り

上洛の討官軍、平南孫、孫朝氏、和田清崎より、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

漢小舟の海人の淡路の迫戸と渡る船、と海辺の眺を、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

萬の兵船、順風、小帆を、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

四五里、後小漕、速て、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

地小成、く帆影、小見ゆる山、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

赤壁の我、大元、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

驚く、て見、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

二ツ引、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

去處、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

一、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

其勢、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

と、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

漢小舟、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

ゆ、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

帷幕、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

攻寄、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

五十萬騎、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

遠矣濱

和田清崎とて、建武二年五月、遠矣濱に籠居り

上洛の討官軍、平南孫、孫朝氏、和田清崎より、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

漢小舟の海人の淡路の迫戸と渡る船、と海辺の眺を、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

萬の兵船、順風、小帆を、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

四五里、後小漕、速て、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

地小成、く帆影、小見ゆる山、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

赤壁の我、大元、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

驚く、て見、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

二ツ引、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

去處、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

一、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

其勢、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

と、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

漢小舟、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

ゆ、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

帷幕、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

攻寄、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

五十萬騎、
遠矣濱に籠居り、五月二十五日辰刻、小澳の處に晴向より、出小舟、えさる船あり

又五萬餘騎楯の端を鳴し胡蝶を敵く時と他は秋津方乃
時聲南へ淡路繪巻崎戸の澳西へ播磨路明石の浦東へ
橋津生田東四方二万餘里小響波く苟小大維も断て落押
船も傾く計之去後小新田足利相挑くいせと我る所小本間
孫口希重氏英瓦毛ある馬のたぐ遅し紅下濃の體着て只
一騎小田津修の波歩陳小馬歩寄く澳ある船小向く大音聲
と舉ぐ申々侍の將軍筑策より上洛めは定て鞆尾道の傾城
共多く召具され候らん其爲小珠と侍者一ツ推て進せ候らん
侍侍少く之俣小上差の流鏑矢を按く羽の少く度り多々矢鞍れ
若藤小當てやた車一二所藤の弓れ握太ある小取副小松法小馬と
お穿く浪の上ある船の己が影なく魚と驚く花さる程とそ
待り々侍敵は足取えく射放たらん希代の笑哉と月夜
放す浪津方は是れ足く射當たらん時小取くの名譽哉と

機と攻て守ける遠く高飛舉する鶴浪の上小落さゆりく二人
計ある魚と主人のをとつ鯛と澳の方一花りくるま本間小松
原の中より馬矢懸出く追探ふ成く菟鳥お射よりけは
態と生かざり射て落さんと行ねがひと射切く直中とは射ざり
たる間鏑の鳴響てた肉女が舟の帆柱小立船へ魚と鯛かぐる大友が
舟の登形の上へ落さるける射子誰と知のぞと秋船七千餘艘
みん船と踏く立雙び津方の官軍五萬餘騎ハ汀小馬矢相へく
ア射よりやくと感ざる聲天地響くと蹄を得て將軍これ
と見結て秋我弓の程と見せんといふは射はるが方船の中へ
名落するも津方の若事と覺ゆるへ何様射の名字を聞かや
と修るれは小本間河七希船の舳小立少く類少かく見所有
ても遊されつる者哉とそし侍名字を何と申候やんきうぬ
ほへやと向よりた且本間弓杖小きやうく具身人あはれ者

少く候ハ名素申とも難し所存知いぬた但弓矢を取てい坂東
八箇國の兵け申少く名を利する者も所存いらんけ夫おく名素とは
所造いと云こ之張小十五束之仗ゆるくと引渡一ニツ引兩
の旗さる船を格く遠夫め射うけ余其夫二町餘が
緘く將軍の船に雙る佐々木筑前守が船を荒中過通り
登形小素より兵の體れ軍摺小裏がせせき立より若舟
將軍け矢と取寄せ見給ふ小相模國住人本向孫四郎
重氏と小刀の先めく書うけけ諸人此夫を取傳へ見く穴
懼如何ある不運の者け夫先廻く死あんぞんを帯く曾
とぞ冷くたる

真井里 毛彦の船尻池村が

真井浦 尻池村の南にあり真井入江まの入湖へ
近に國ゆへ

隆信

後後標

真登池 尻池村の西小あり
度井に百二十畝

人九

また

はの池れ小菅と笠おぬいとて人の化名成之川とあり
と知をれをうき○のわのわくやれ氷をゆるるの池水

全

日

まの池の傍つてひり二つ○やまののまの橋とありん
夕されははの池水とありてよのれもあつちれ村が

暖九条
内八條
三条入道
内八條

新藻川 尻池村の西小あり水添縣獄の山中より流く
長田里と屬く尻池小至り海小入

真登 尻池村の西小あり
石橋といふ

相模

また

さても忠やうそとてまのまればとひまのつと橋
わの池や成とてのちみも成りてとてふもはのつたをし

若子

白梅 尻池村の中民家の側小あり
さめは鏡が慕われは梅の愛し申く

行枝小藤やめいんりれ花

文考

犯後

梅十少の事

燕村

梅十少の事

今四十三尾

WVJ

